

島嶼防衛用高速滑空弾（早期装備型）は どこまで進捗したか

防衛装備庁 長官官房 装備開発官(統合装備担当)付
高速滑空弾開発室

目 次



Hypersonic Glide Vehicle Development Section/Joint Systems Development Division

- 1 事業の進捗について
- 2 島嶼防衛用高速滑空弾の概要
 - (1) 島嶼防衛用高速滑空弾とは
 - (2) 島嶼防衛用高速滑空弾の特徴
 - (3) 島嶼防衛用高速滑空弾の全般計画
- 3 試験の状況
 - (1) 第1次発射試験
 - (2) 第2次発射試験
 - (3) 国内試験
- 4 まとめ

1 事業の進捗について

事業の進捗状況について



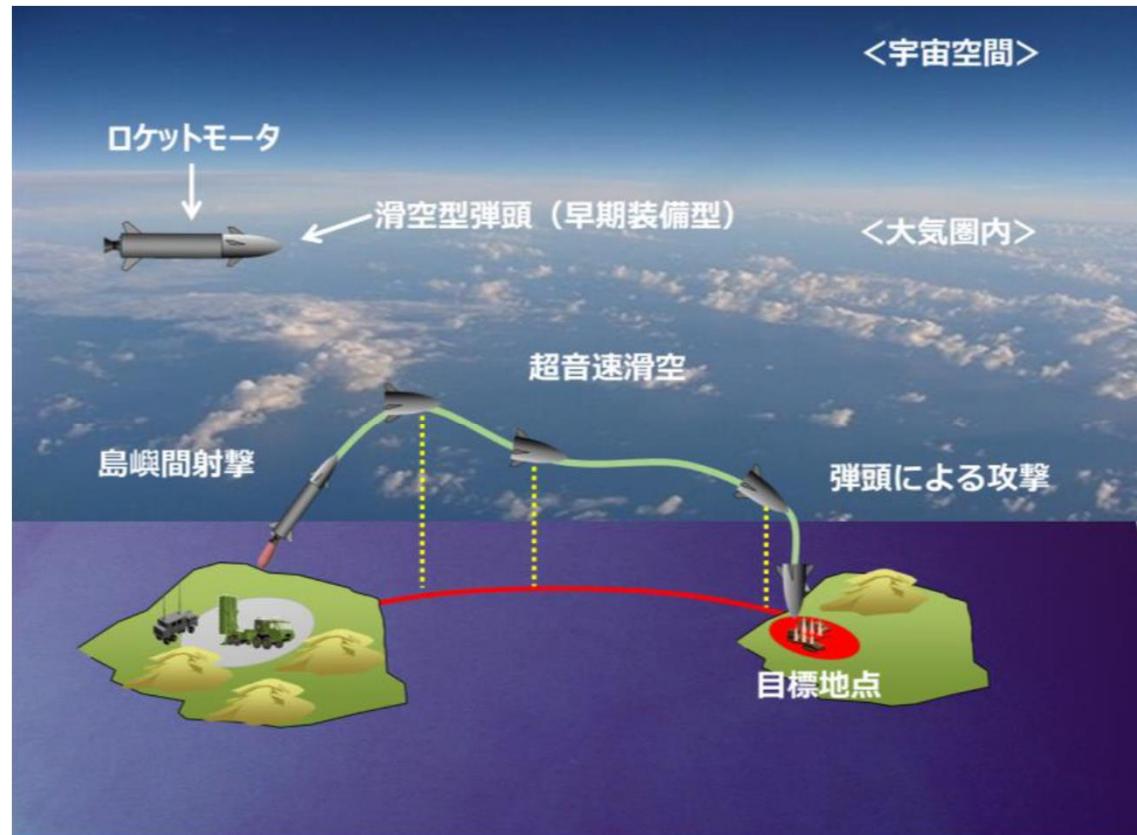
Hypersonic Glide Vehicle Development Section/Joint Systems Development Division

- ・防衛省・自衛隊は、我が国への侵攻部隊を早期・遠方で阻止・排除するため、スタンド・オフ防衛能力を強化することとしています。
- ・島嶼防衛用高速滑空弾については、令和6年8月～令和7年1月に第1次発射試験を、令和7年6月～8月に第2次発射試験（最終の発射試験）を米国にて実施し、所要の成果を得ました。
- ・また、国内においても運用を想定した試験を実施し、所要の試験成果を取得しました。

2 島嶼防衛用高速滑空弾の概要

島嶼防衛用高速滑空弾とは

Hypersonic Glide Vehicle Development Section/Joint Systems Development Division



- 島嶼防衛用高速滑空弾は、島嶼部への敵の侵攻等に対処するため、長距離かつ対空火器による迎撃が困難な高高度を超音速で飛しょうし、正確に目標に到達して対地火力を発揮するものです。

島嶼防衛用高速滑空弾の特徴

Hypersonic Glide Vehicle Development Section/Joint Systems Development Division

- ・島嶼間射撃に必要な射程
- ・至短時間で弾着可能な速度
- ・迎撃困難な高速滑空飛しょう



島嶼防衛用高速滑空弾のイメージ
(左：弾薬、右：発射機)

島嶼防衛用高速滑空弾の全般計画

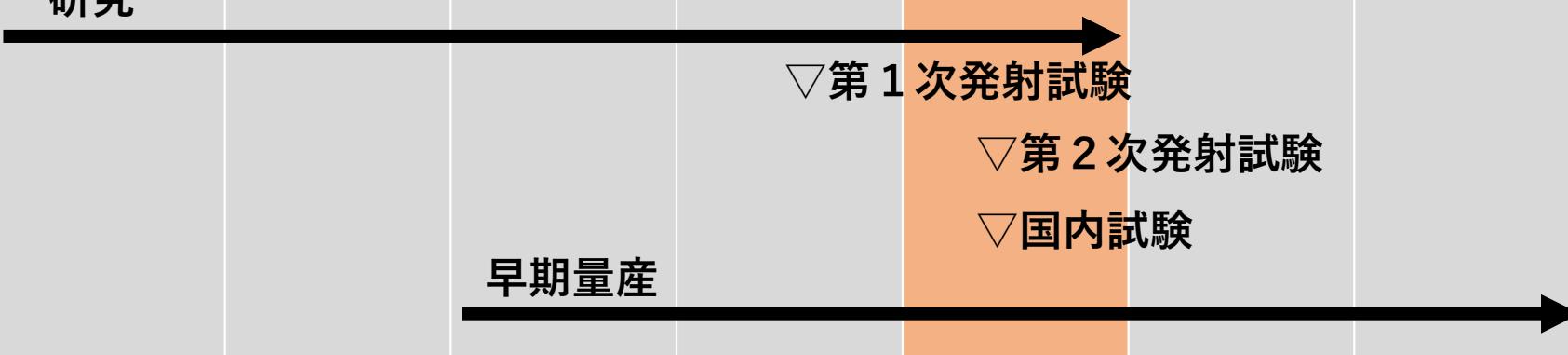
Hypersonic Glide Vehicle Development Section/Joint Systems Development Division

和暦	30年度	－	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度
西暦	2018	－	2023	2024	2025	2026	2027
研究					△第1次発射試験		

早期量産

△第2次発射試験

△国内試験



高速滑空弾は、平成30年度から研究を進めるとともに、部隊配備を可能な限り早期に実現するため、令和5年度より量産に着手しています。

3 試験の状況

第1次発射試験（1／2）

第1次発射試験の写真



第1次発射試験（2／2）



Hypersonic Glide Vehicle Development Section/Joint Systems Development Division



第2次発射試験（1／2）

第2次発射試験の写真



第2次発射試験（2／2）



Hypersonic Glide Vehicle Development Section/Joint Systems Development Division



国内試験（1／5）

走行試験の写真



国内試験（2／5）

システム性能試験の写真



国内試験（3／5）

弾薬の装てん・射撃機能試験の写真



国内試験（4／5）

積雪寒冷地試験の写真



積雪寒冷地試験（弾薬装てん）



積雪寒冷地試験（積雪地走行）

国内試験（5／5）

被輸送性試験の写真



4 まとめ

まとめ



Hypersonic Glide Vehicle Development Section/Joint Systems Development Division

- ・第1次発射試験、第2次発射試験を完了し、滑空して飛しょうすることを確認する等、研究開発の完了に目途を得られました。
- ・国内試験においては、運用を想定した試験を実施し、所要の試験成果を収めております。
- ・島嶼防衛用高速滑空弾は本年度中に研究を完了する計画です。